

仮想化テクノロジーやクラウドの浸透などITを取り巻く環境は変化し、それに伴う新たな運用オペレーションも増加しています。なかなか増えない運用要員、それでもビジネス貢献を求められ、ITシステムを支える運用管理の現場は、「サバイバル」状態に近いと言えるでしょう。このたび、JP1ユーザ会では、「運用管理はサバイバル!?!～激変する時代に勝ち残るための戦略とは?～」と題して特別セミナーを開催いたしました。

開催概要

- ケーススタディ 「運用効率アップ、運用業務の見える化。アットホームの選択とは。」
- キーノート 「アナリストが教える、顧客(ユーザー)を満足させる運用管理」
- パネルディスカッション 「激変する時代に、勝ち残るための戦略とは?」
- ユーザ交流会 「ユーザネットワークを拡げて、自社の運用改善に役立てよう」

ケーススタディ

■ ～運用効率アップ、運用業務の見える化、アットホームの選択肢とは～

「JOBの安定運用実現に向けて」
JOBの統合管理及び稼働状況の把握

アットホーム株式会社
情報システム部
チーム長 宮之原 秀雄様



不動産情報サービスを提供しているアットホーム株式会社様から、JP1を活用したイベント集約、ジョブの傾向分析を行うことにより、障害への早期対応を実現した事例をご紹介いただきました。稼働状況の収集から集計、分析、報告書作成までの作業時間を「千里眼イベント管理 for JP1」で、1/5まで短縮されました。現在では、より効率的な情報収集/分析をするため、「千里眼」の機能性や利便性を追求して、テンプレート改善をしているそうです。「千里眼」のレポートを参照しながらバッチジョブの開発と運用両面の課題を解決したケースは、JP1ユーザにとって大変参考になる内容でした。

キーノート

「アナリストが教える、顧客(ユーザー)を満足させる運用管理」

株式会社テクノ・システム・リサーチの幕田氏より、アナリストの視点から、顧客をいかに満足させ、会社から求められる要求に応えられるのかについて調査に基づき語っていただきました。果たして、業務ビジネス部門がITサービス提供者に求めているものは何か?サービス利用者は、問題の即時解決を一番に求めているが、それと共に「業務部門に足を運び、業務を把握して欲しい」という声も大きいという。幕田氏は、「サービスは事前期待に対して決まる」そして「運用管理者は



会社を変えることが出来る」と続ける。業務部門とコミュニケーションを図り、事前期待をしっかりと把握することが大切なことであり、運用担当者がいかにして業務スキルを身につけていくかが、今後の課題となるのではないかと締めくくりました。

株式会社テクノ・システム・リサーチ
シニアアナリスト
幕田 範之様

パネルディスカッション

「激変する時代に、勝ち残るための戦略とは?」

JP1を最大限に活用し、運用改善に果敢に取り組み成果を上げているユーザ代表をパネリストとしてお迎えし、これまでの運用管理を振り返り、将来のシステム課題や対策など、さまざまなご意見をお伺いしました。また、開発メーカへの提言もあり、本音で語るディスカッションとなりました。

- ◆PickUP◆「運用管理ツールに求めること」
機能が豊富すぎて使いにくくなっているのではないかとというパネリストの意見に対し、JP1V10では、使う人に優しい画面作り、ミスを起こさないための自動化に力を入れ開発し、機能の効果や目的がわかりやすいように情報発信をしていきたいとメーカサイドからの回答がありました。
- ◆PickUP◆「今すべきIT部門の取り組み」
皆様が口を揃えて「人材育成/教育」と回答されました。そこには技術の進歩に伴い人間も進歩すべしというメッセージが込められていました。また、運用管理者が憧れの職業となるような会社制度も作るべきというご意見も出ました。



2013年度は、JP1ユーザ会を活用しようを合言葉に、皆様のお役に立てる会として成長して行きたいと思えます。



運用担当者が
元気でいられるように、
JP1ユーザ会は活動を
続けます!

ユーザ交流会

セッション終了後、パネリストや開発元である日立製作所様へのQAや意見交換ができるユーザ交流会を行い、お客様同士の交流の場としてたくさんの方にご参加いただきました。

